

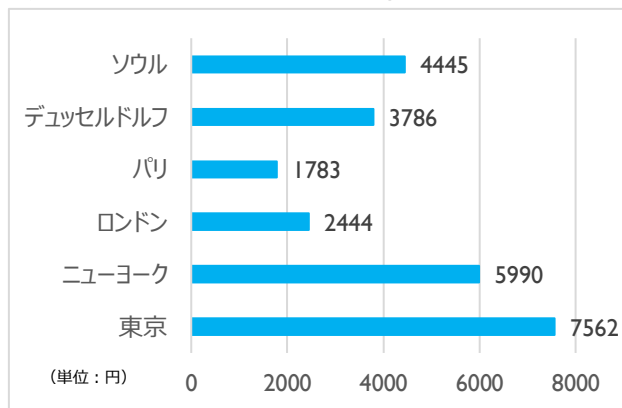
ケータイ料金の日英比較

日本の携帯料金引き下げ議論

日本の携帯電話料金について、8月21日に菅官房長官が「4割程度下げられる余地がある」と発言したことから、その見直しについて議論がなされています。

総務省が、9月に公表した「電気通信サービスに係る内外価格差調査－平成29年度調査結果－」では、月5GBのデータ容量の料金比較において、ロンドンの2,444円、パリの1,783円に対して、日本は7,562円と、ロンドンの3.1倍、パリの4.2倍であると報告されています。

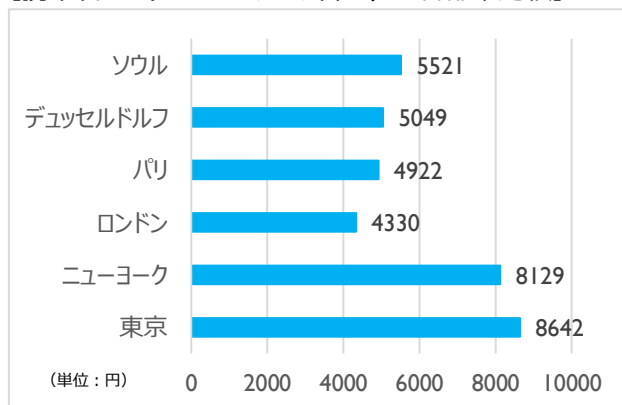
【携帯料金（月5GBのデータ容量）の各都市比較】



(総務省「電気通信サービスに係る内外価格差調査」より当行作成)

月20GBのデータ容量の料金プランにおいても、ロンドンの4,330円、パリ4,922円に対して、東京は8,642円と、月5GBの料金差ほどではないにしてもロンドンの2倍、パリの1.7倍となっています。

【携帯料金（20GBのデータ容量）の各都市比較】



(総務省「電気通信サービスに係る内外価格差調査」より当行作成)

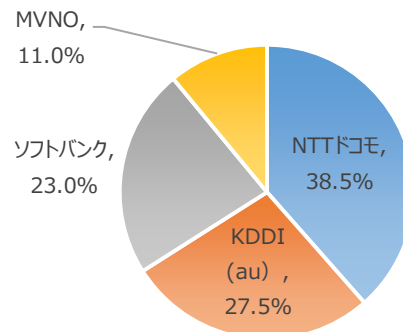
このような海外携帯料金との価格差が、「4割程度下げられる余地がある」といわれるひとつの根拠となっているようです。

日本の携帯キャリアのマーケットシェア

10月10日に総務省が開催した「モバイル市場の競争環境に関する研究会」では「携帯電話市場について競争が十分に働いていないのではないか」との指摘もありました。

そこで、まず日本の携帯キャリア別のマーケットシェアを見てみたいと思います。

【日本の携帯キャリア別のマーケットシェア（2018年6月）】

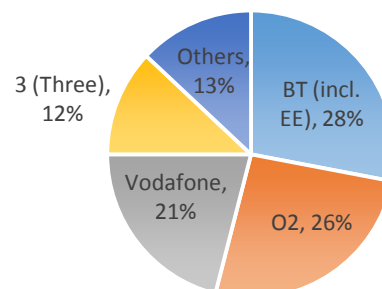


(総務省「電気通信サービスの契約者数及びシェアに関する四半期データの公表（平成30年度第1四半期（6月末））」より当行作成)

総務省の統計データでは、2018年6月時点で、NTTドコモが38.5%、KDDI (au) が27.5%、ソフトバンクモバイルが23.0%となっており、大手3社で89%のシェアを占めています。残りの11%は、いわゆる格安スマホに代表されるMVNO（仮想移動体通信）事業者が徐々にシェアを広げている状況です。

英国の携帯キャリアのマーケットシェア

【英国の大手携帯キャリア別のマーケットシェア】



(Ofcom/operator Website より当行作成)

英国の携帯キャリア大手は、BT(EEを含む)、O2、Vodafone、3 (Three) の4社で、その他13%は60社以上の小規模ブランドが凌ぎを削っています。

【英国の携帯大手キャリアの一角、Vodafone のショップ】



2015年、3 (Three) がO2への買収を提案しましたが、欧州委員会はこの買収提案を却下しています。買収により、ユーザーの選択肢が狭まり、料金は高くなり、モバイル分野のイノベーションを阻害してしまう、というのが却下の理由です。

フランスにおいても、2012年に第四の携帯キャリア事業者Freeが市場に参入したことで、価格競争が起こり、ユーザーに大きな恩恵もたらされたといわれています。

英国の携帯キャリアのサービス

英国の携帯キャリアは、価格面だけでなく、様々な付帯サービスをおこなっています。

例えば、3 (Three) では、“Wuntu”と呼ばれる無料アプリで様々なレストラン、カフェ、ショップのバウチャー券を提供していたり、EEでは、“EE フィルムクラブ”サービスとして、1ポンドで好きな映画がダウンロードできます。

携帯料金の日英比較

日英の携帯キャリアを比較すると、まず日本はより寡占化した競争環境にあるといえます。昨年12月に楽天が携帯電話事業への参入を発表しましたが、楽天が本格的に参入すれば、より厳しい競争環境となり、料金の見直しが進むきっかけとなるかもしれません。

また、現在の日本の携帯キャリア各社の料金・契約体系が複雑すぎるのも、ユーザーの納得感が得られにくい一因でもあるようです。野村総合研究所による、携帯料金に対するユーザーへの意識調査では、料金が高い、納得していないユーザーが各60%、30%にも及び、その不満の要因として、料金の負担感と、携帯キャリアへの不信感が挙げられています。携帯ショップでの故障対応や機種変更などの待ち時間の長さもユーザーの不満の原因につながっています。

日本のSIMフリーの格安スマホは、月額2,000円台からサービスを提供しており、海外の料金とさほど変わらない安さですがマーケットシェアはようやく10%を超えたところで、料金差が大きい割には、乗り換えるユーザーは未だ多くはない状況です。

もちろん価格面だけで海外との比較はできず、日本のネットワーク品質は世界でもトップレベルといわれるように品質の差も考慮しなければなりません。災害が多い日本特有の事情を考慮すればネットワーク品質を維持するためにはある程度、海外との価格差が生じてしまうのは仕方がないのかもしれませんが、とはいえ、格安スマホへの乗り換えがそれほど急速には進まず、高いと感じながらも大手携帯キャリアとの契約を継続するのは、やはりそれだけ期待するサービスのレベルが高いからなのではないでしょうか。ユーザーが何事にも完璧なサービスを要求しすぎて、価格が低下しにくくなっている側面もあるのではないかと考えられます。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。